

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 1月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100322
法人名	特定非営利活動法人 在宅福祉たらっぺ会
事業所名	グループホーム稲荷台ホーム
所在地	高崎市稲荷台町1278-1 (電話) 027-373-0999

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 3人, 非常勤 13人	常勤換算 8.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費400円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 100 円
	又は、1日1,000円		

(4) 利用者の概要(12月 31日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 79.8歳	最低 68歳	最高 88歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木暮医院 ・ 緩和ケア診療所いっぽ ・ 本多歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護保険制度創設以前、認知症の介護に疲労した家族の駆け込み寺的存在として養蚕農家を使用し開設している。事業所は、開設当初のボランティア精神を保持し、入居者の心を傷つけないことを第一に、入居者の意向や希望に沿い、散歩や買い物、入浴等一人ひとりがその人らしい暮らしを送れるよう支援している。また、二階居室の階段利用者には見守りで危険を回避し、段差は医師や家族と相談し日常生活の中でリハビリに活かしたケアを行っている。入居当初は車いす利用者が、自立歩行が可能となり1日3回の散歩を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の改善課題をミーティングで話し合い、ホーム入口の看板を設置したが、改善されていない項目も見られる。外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し、具体的な改善に取り組まれるよう期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が作成し、法人の事務局職員が内容を確認している。自己評価及び外部評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組むと共に、自己評価を活かして具体的な改善に取り組まれるよう期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>全家族に案内状を送付し、隔月毎に開催している。会議では、業務内容等を報告すると共に、自己評価及び外部評価のコピーを配布している。意見交換では、職員は名札を着用してほしいとの要望には、職員の顔写真と氏名が記載された一覧を玄関に貼り出し、年間行事計画を知りたいとの要望には年間行事計画表を配布している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に入居者の健康状況等を報告すると共に、1ヶ月分の日誌と介護記録のコピーを利用料請求書に添え家族に送付し、入居者の状況やケア内容等を十分に知ってもらえるよう支援している。また、何でも言える環境づくりを行い、面会時の会話の中でそれとなく要望や意見等を聞くよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が青年会に加入し道路清掃や夏祭りに参加し、入居者は地区の運動会や夏祭りを見物している。また、地域の人が、入居者の散歩コースに休憩用のベンチを設置しその周辺に草花を植えてくれたり、野菜を持参し入居者とお茶を飲んだり地域の人々との交流が行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症や身体機能障害を持っていても、最後まで人間として尊厳が守られ、その人らしい暮らしを送れるよう支援する」を理念に掲げ、日々の支援に取り組んでいる。	○	理念は、そのホームが目指すサービスの在り方を示したものであり、地域密着型サービスの目的や役割を管理者及び職員で話し合い、理念を見直すよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念を説明し、共感できる人を採用している。ミーティングで、一人ひとりの入居者が何を求めているのか理念に沿った支援について話し合い、その人らしい暮らしを送れるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は青年会に加入し道路清掃や夏祭りに参加し、入居者は地区の運動会や夏祭りを見物している。また、中学校の職場体験やボランティアを受け入れている。地域の人が、入居者の散歩コースに休憩用のベンチを設置し、その周囲に草花を植えてくれたり、ホームに野菜を持参し入居者とお茶を飲むなど交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、法人の事務局職員が内容を確認している。外部評価の改善課題をミーティングで話し合い、ホーム入口の看板を設置したが、改善されていない項目も見られる。	○	自己評価及び外部評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組むと共に、外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し、自己評価及び外部評価を活かした取り組みを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全家族に案内状を送付し、隔月毎に開催している。会議では、業務内容等を報告すると共に、自己評価及び外部評価のコピーを配布している。意見交換では、家族から、職員は名札を着用してほしい、年間行事計画を知りたいとの要望があり、職員の顔写真と氏名が記載された一覧を玄関に貼りだしたり、年間行事計画表を配布するなど意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ヘルパー2級の実地研修会場としてホームを提供しているが、各種変更書類等の提出等は法人本部の事務局員が対応している。	○	管理者は、運営推進会議以外でも市の担当職員と交流する機会をつくり、市と共にサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状況等を報告すると共に、利用料請求書に1ヶ月分の日誌と介護記録のコピーを同封し送付している。金銭管理については、立替金処理し、レシートのコピーを添えて毎月精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月分の日誌と介護記録を家族に送付し、入居者の状況やケア内容等を十分に知ってもらえるようにしている。何でも言える環境づくりを行い、面会時の会話の中でそれとなく要望や意見等を聞くよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去2年程は退職者もおらず、法人内の異動も行っていない。異動や採用がある場合は、入居者に紹介すると共に、1ヶ月間日中の勤務者を1名増員配置し、入居者の希望に沿った支援をするよう指導等を行っている。なお、夜勤は専任者を採用している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のパンフレットを貼りだしている。今後、法人が運営するデイサービス事業を視察する予定である。電話のかけ方や年長者である入居者に対する話し方等を、日々の業務の中で指導している。	○	運営者は、各職員の経験等に応じた研修計画を立て、受講後は研修報告会等を開催するなど、職員の資質向上を図られるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しているが、小規模多機能ホーム・グループホーム大会には参加せず、職員相互派遣研修にも参加していない。	○	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流することにより、入居者のサービスの質の向上が図られることを理解し、管理者等が同業者と交流する機会を持たれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者や家族がホーム見学した後、家族と在宅介護支援専門員を交え話し合い、入居者や家族の意向に沿った支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	うどん打ち、たくあん漬けなどの調理やシーツの交換、雨戸を開ける等を入居者と一緒に行っている。また、昔のしきたりや包丁の使い方、袖たたみのたたみ方を教わったり、日々のケアで「ありがとう」の言葉に職員は励まされ共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や希望は日々の介護の中で聞きとり、意思表示の困難な入居者は家族から情報を得ると共に入居者の表情等から汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の要望等は日々の介護や面会時に聞き取り、サービス担当者会議で職員の意見等を聞き、介護計画に反映させている。介護計画2通を家族に送り、1通に署名・押印を頂き返送してもらい、面会時に説明し話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、サービス担当者会議で見直しを行うと共に、体力低下や異食等状況の変化に応じ現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要請を受け、受診や理美容の送迎、希望を取り入れた献立の食材やおやつ、パチンコを楽しむ人の付き添い等個々の入居者の満足度を高める支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には必要とする資料を提供し、原則家族対応であるが、状況により職員が送迎する等適切な医療が受けられるよう支援している。家族の了承を得た入居者は、ホーム協力医にケアプランの写しを渡し、1ヶ月毎の定期検診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期の介護について家族の意向を聞き、重度化や終末期を迎えた入居者の家族には、面会毎に意向等を確認し、嘱託医の往診や訪問看護師の対応、家族が付き添い看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に入居者の尊厳を守ることを掲げており、日常介護の中で年長者として尊重する会話をしよう指導している。入室の際の言葉かけや排泄介助は自室で行う等プライバシーを尊重した介護に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜中に外出し徘徊する入居者には付いて歩いたり、3食を部屋で食べる入居者、晩酌をする入居者、毎日3回散歩する入居者、5時に入浴する入居者など一人ひとりの意向に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の希望を聞き、入居者と共に食材の買い物に行き、仕込みや調理を共に行い、お茶入れや下膳をしている。職員と入居者が食事を共にすることが職務の一環であることから、職員の食費を徴収せず常に入居者と共に食事をしている。また、庭でのバーベキューや外食行事等を行い、食事が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めてなく、毎日5時に入浴している入居者がいる。入浴拒否の入居者には、「正月が来るから入ろうね」とか、「足がかゆいのは入浴すると治るよ」等と言いつつ、入浴の誘導をしている。また、ヒノキ湯・薬湯・入浴剤を使用したり、歌の好きな入居者には唄いながら入浴する等入浴を楽しむ工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝新聞を取りに行く、雨戸を開ける、草花への散水をする、お茶入れや芋の皮むきをするなどその人に合った役割をお願いしている。花見を兼ねたドライブ、地域の盆踊りや運動会の見物を行い、晩酌をする、月1回パチンコをする等入居者の気晴らしや楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は1日3回散歩する入居者や入居者の車いすを押して散歩をする入居者、食材の買い物をする等行っている。また、入居者が新聞の花便り等を見て、「行きたいね」と言う希望を取り入れたドライブ等戸外に出る支援に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない介護を行い、玄関や廊下のガラス戸には鍵はなく、入居者が外に出るのは自由である。午前2時に外出する入居者に専任の職員を当て、とことん付き合うこととしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網はあるが、電話の近くや目につきやすい場所に貼りだされていない。消防署の視察・指導で消火訓練を行い、消火器の置き場所や水の汲み置き等の指導を受けている。なお、災害時等の協力依頼を地域の人に行っている。	○	年2回の避難・消火訓練を行い、緊急連絡網を適宜の場所に貼り出すよう期待する。なお、避難・消火訓練には消防署の指導を仰ぐと共に、夜間を想定した訓練を行うことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表により栄養バランスを考慮した調理を行い、食事チェック表と日誌に1日の食事摂取量と水分摂取量を記録している。飲み物に好き嫌いのある入居者には、コーヒーやココアを用意し水分補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	養蚕農家を利用しているホームである。階段の利用は見守りで危険を回避し、段差は医師や家族と相談し日常生活のリハビリに活かしたケアを行い、車いす利用者が1日3回の散歩をするまでに回復している。和室の居間兼食堂には茶箆箆や炬燵が置かれ、テレビを見ながらお茶を飲み談笑している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室で、入居者に合わせ布団かベッドが置かれている。沢山の本を持参し毎日読書する入居者、鏡台や家具・大正琴やカラオケセットが持ち込まれ、家族の写真が飾られるなど居心地良く過ごせるよう配慮されている。		